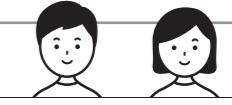


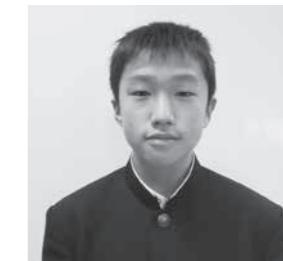
両親ともつと話したい

南陽西小学校 6年 荒木 晴延



人權啓發標語

気がつこう 心のおくの 真実に



自分で確かめて
行動していきたい

ぼくは、今まで差別やいじめなどの人権問題に対し、無関心な人が多いなどを感じていた。たとえ、関心があつたとしてもうわざなどを広める人も多いなども感じていた。なぜなら、水俣病問題を学習した時、うわさを信じて差別をしてしまった人がたくさんいたからだ。また、ぼくは、小学校で人権について学習するまで人権問題を知らなかつた。テレビなどで水俣病問題など見たことはあった。しかし、その時の自分は深く知らうともしなかつた。

は、水俣病にかかった人とその家族に対しての差別などだ。水俣病患者とその家族が悪いわけではないのに差別された。水俣出身というだけで差別された人もいた。その差別された人は、水俣病患者が身内にいることを隠さなければならなかつた。

では、なぜ差別されたのか。それは、うその情報を流した人、それを信じて、うわさをさらに広めた人もいたからだ。もし、うその情報が流されたとしてもちゃんと確かめたら差別は起きなかつた。水俣病問題は、深く調べなかつたり、関心が足りなかつたりしたことかが原因で起つてしまつたとぼくは思つた。だから、この先、水俣病のようないい問題がまた起つるかも知れない。その時は、うそ

自分の目で確かめてから行動していきたい。

次に障がい者への差別問題について。障がいには視覚障がいや聴力障がい、嗅覚障がいなどがある。今は障がい者差別解消法やバリアフリー化などが進んできてしまっている。しかし、まだ車いすだから乗車を拒否されたり、アパートへの入居を拒否されたりするところもある。

ぼくの両親は耳が聞こえない聴力障がい者だ。ぼくは、昔、聴力障がいなどとく知らなくて、耳が聞こえないことに對して腹がつっていた。両親が聴力障がいなので、それ違いもよくわからなかった。両親と話すために手話や指文字を使わないと会話できなかつた。だから、正直、会話するのも面

を考えた。まだまだ、ぼくは、聴力障がいのことについて無関心だったなと思った。両親と聴力障がいのことは、障がい者問題をもつと深く学びたいし、知つて、手話や指文字を使って、できるだけ両親と会話していきたい。両親は耳が聞こえないことでいろいろ苦労しきたし、子どもとも話しきつたかったはずだ。でも、ぼくは話すのを面倒くさいと思つてしまつた。だから、

題を人権学習で学習する前に知つておかなければいけなかつたと後悔した。これから、水俣病みたいな病気が出るかもしれないの、うその情報は信じない。その病気について関心を持つつていきたい。そして、両親との会話をちゃんとして手話をできるだけ覚える。今後、両親とすれ違うことがたくさんあると思うけど、話せば、絶対、絶対、わからり合えると思う。だから両親との会話を楽しく、怠らないようにしていきたい。

学校だより 56

菊陽南小学校



音楽劇の一場面から

「後の世のため人のため」

菊陽南小児童の宝の一つに「馬場楠井手の鼻ぐり」があります。人知を尽くした「鼻ぐり」を知り、「鼻ぐり」を介して、児童が地域の方々とつながる貴重な機会が得られるから「宝」なのです。

11月19日㈯、3年ぶりの縮小版鼻ぐり井手祭で、本校の3・4年生が鼻ぐりを題材にした音楽劇を発表しました。ここに至るまでには町文化財ボランティアガイドの会をはじめ、たくさんの方々にお世話をなっています。鼻ぐりのことをもっと伝えていきたいという感想をもつた児童たちは、「後の世のため人のため」という400年前の人々の願いを、きっと語り継ぐことでしょう。



音楽劇の一場面から

短歌会

菊陽句會報

きくよう芸芸

淋しらの独りの庭の石蕗明り	さび ひとりのひのとねのいは	寺尾千代子
鳥たちの来る日来ない日庭小春	とりたちのくわるひくわらないひにわこはる	紫藤 祥子
秋さぶや椅子に重なる親子猫	あきさぶやいすに重重なるおやこねこ	吾に戯秋蝶妹のごとくあり
夕映えの天涯地角阿蘇の秋	ゆうばえのてんがくぢかくあそのかい	曾我 育代
鍬の柄を支へに仰ぐ鱗雲	くわいえいをさへにのぞぐりんうん	ひとひらの風掬ひつ、銀杏散る
旅終へて安堵の帰宅石蕗明り	たびのとへてあんどのかへりいは	田中 郁子
さんま焼くだけの七輪倉庫から	さんまやきくだけのしちりんくらうから	長旅の車窓は順に秋装ふ
吉田 幸子	よしだ さちこ	財津 早雪
胸中を語る人なき夜の長き	きょうじゅうちゆうじゆ	緒方チエイ子
転た寝す小春の空に寄り掛かり	うたねこはるのそらによりかかり	木村 信子
風の声水の声聞く芭蕉林	かぜのこゑみずのこゑきくばしょうりん	米山るみ子
高橋 孝子	たかはし こうこ	捨てがたき本をめぐりて夜長かな
佐藤 澄世	さとう すみよ	原野レイ子
北川しんじ	きたがわ しんじ	転た寝す小春の空に寄り掛かり

秋の阿蘇古坊中に佇めるかの修驗者も硫黄嗅ぎけむ
雨待ちてホウレンソウの種を播まく明日の予報は數十ミリと
限りなく澄む青空に雲淡く流れ消えゆく時の間にして
山寺の鐘つきおれば晚秋の木々に吸われて余韻は消えゆく
枝搖するヒヨのそばには早咲きの白き椿が二輪咲きたり
刈田には二羽の白鷺舞い降りて踊るがごとく啄みており
水槽の中にメダカは泳ぎおりバラの花びらひとひら落ちた

梅田國雄 有久賢治
佐藤せい子
田中成美
中村トシエ
馬場礼子
松本東垂